

Ⅲ 総括

1. 全体考察

■ 回答者について

回答者は女性の割合が5割以上と高くなっています。年齢では70歳以上の割合が約2割と高くなっています。また、約7割の人が、加古川市での居住年数が20年以上となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約3割、「無職」が約2割となっています。通勤・通学をしている人の通学・通勤先は、約4割が市内、残りが市外となっています。また、通勤・通学をしている人の約5割は、「自動車」を利用しています。

■ 定住意向と幸福感について

6割以上の方が、加古川市での定住意向があると回答しています。女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、定住意向が強い傾向がみられます。地区別にみると、加古川西地区において、最も強い定住意向がみられます。

定住意向のない人が転居したい理由としては、通勤、通学に不便であることや、景観・まちなみに魅力が少ないこと、買い物環境が充実していないことなどが挙げられています。性別でみると、男性では景観・まちなみに魅力が少ないこと、女性では通勤、通学の不便さが挙げられています。地区によっても傾向は異なり、加古川北地区では景観・まちなみの魅力の少なさ、買い物環境が充実していないことが多く挙げられています。

普段の生活の中で感じる幸福感については、約8割の人が幸せを感じる（「感じる」「やや感じる」の合計）と回答しています。「幸せ」であるために重要だと思うこととしては、健康が約8割、家計が約6割となっています。年齢によって傾向が異なり、比較的若い世代では精神的なゆとり、30歳代以上では家計や家族関係、高齢になるにつれて健康が重要視されています。

■ 満足度・重要度について

満足度では、「水道水の供給」や「下水道の整備」、「消防や救急・救命体制」、「鉄道の便利さ」などへの評価が高く、一方、「ポイ捨てやペットのふん害防止」や「バスの便利さ」、「地域特性を生かした効果的な土地利用」などへの評価は低くなっています。

重要度では、「安心できる医療体制」や「消防や救急・救命体制」、「地域の防災体制」などが上位となっています。

重要度が高いが満足度が低い項目としては、「ポイ捨てやペットのふん害防止」や「バスの便利さ」、「行政の効率化」などが挙げられます。

■ 防災対策・防犯対策について

防災対策、防犯対策のいずれについても、家庭として取組をしている割合が高く、4割以上となっています。一方、何の取組も行っていない人は、防災対策で約4割、防犯対策で約3割となっています。

■ ハザードマップについて

加古川市総合防災マップ（ハザードマップ）を見たことがある人は約7割となっています。男性よりも女性の方が見たことがある人の割合は高く、性年代別にみると、男性70歳以上が最も高くなっています。地区別にみると、両荘地区、野口地区、加古川西地区で、その割合が高くなっています。

■ 市内の道路の「安全性」および「便利さ」について

市内の道路の「安全性」については、約4割が満足（「満足」「やや満足」の合計）、約6割が不満（「不満」「やや不満」の合計）と回答しています。女性よりも男性の方が不満が強くなっています。地区別にみると、両荘地区、浜の宮地区において、最も不満が強くなっています。

市内の道路の「便利さ」については、約4割が満足（「満足」「やや満足」の合計）、約6割が不満（「不満」「やや不満」の合計）と回答しています。女性よりも男性の方が不満が強く、性年代別では、30歳代から60歳代男性の不満が強くなっています。地区別にみると、志方地区において、最も不満が強くなっています。

道路の「安全性」または「便利さ」向上のために必要な取組としては、生活に身近な道路の整備（狭小道路の解消）や、自転車・歩行者道の整備を求める声が多くなっています。

■ 子育てと仕事に関することについて

子育てしやすいまちと感じる人（「感じる」「やや感じる」の合計）と、感じない人（「感じない」「あまり感じない」の合計）はそれぞれ約5割となっています。男性よりも女性の方が子育てしやすいまちと感じる人の割合が高く、性年代別にみると、男性18・19歳や女性70歳以上で高くなっています。地区別にみると、加古川地区で、その割合が高くなっています。

■ 市民活動の参加状況・参加意向

市民活動に参加している人は、約1割となっています。女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、参加している人が多い傾向がみられます。地区別にみると、両荘地区で、その割合が高くなっています。

今後の参加意向がある人（「ぜひ、参加したい」「機会があれば参加したい」の合計）は約5割となっており、参加していない人の中にも、参加意向のある人がいることがわかります。また、性別では女性よりも男性の方が参加意向のある人が多く、性年代別では女性18・19歳や男性70歳以上で参加意向のある方の割合が高くなっています。

■ 市政に関する情報の入手方法や取組等の認知度について

約8割の人が、市政に関する情報については「広報かこがわ」から入手していると回答しています。町内会の回覧からという回答も多く、男性で約5割、女性で約6割となっています。年代別でみると、「広報かこがわ」や「町内会の回覧など」、「新聞」は高齢となるほどよく利用されている傾向があり、一方、若年となるほど市政に関する情報を入手していない割合が高くなっています。

市の取組等の認知度については、「指定ごみ袋制度」や「見守りカメラ」がよく知られており、認知度は7割前後となっています。性別では、「子育てプラザ」や「“ぐうっと！”かこがわ」は、男性より女性の方が認知度が高くなっています。

■ 市や居住地域に対する誇りや愛着の程度

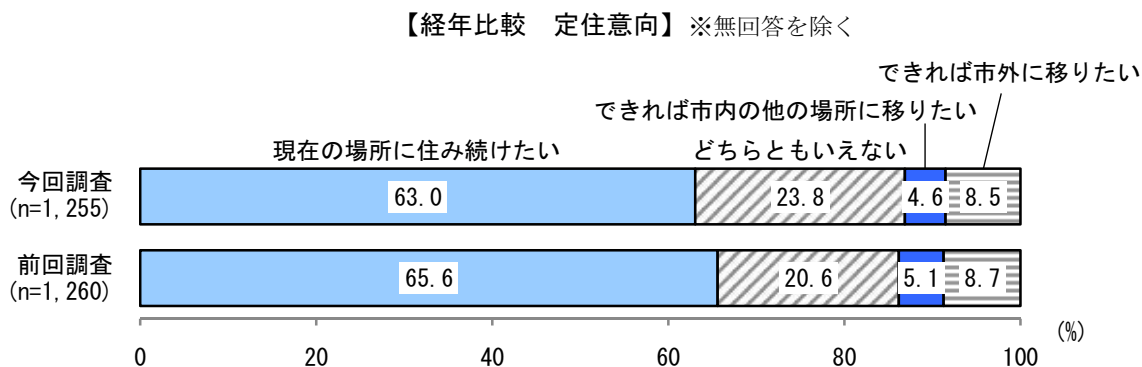
市や居住地域に対する誇りや愛着を感じている人（「強く感じている」「感じている」の合計）は約7割となっています。男性よりも女性の方が誇りや愛着を感じる人の割合が高く、性年代別にみると、男女とも18・19歳や女性70歳以上で誇りや愛着を感じている人の割合が高くなっています。

2. 経年比較

アンケート結果の分析において、前回調査の結果との差異がみられた項目について、考察をまとめます。

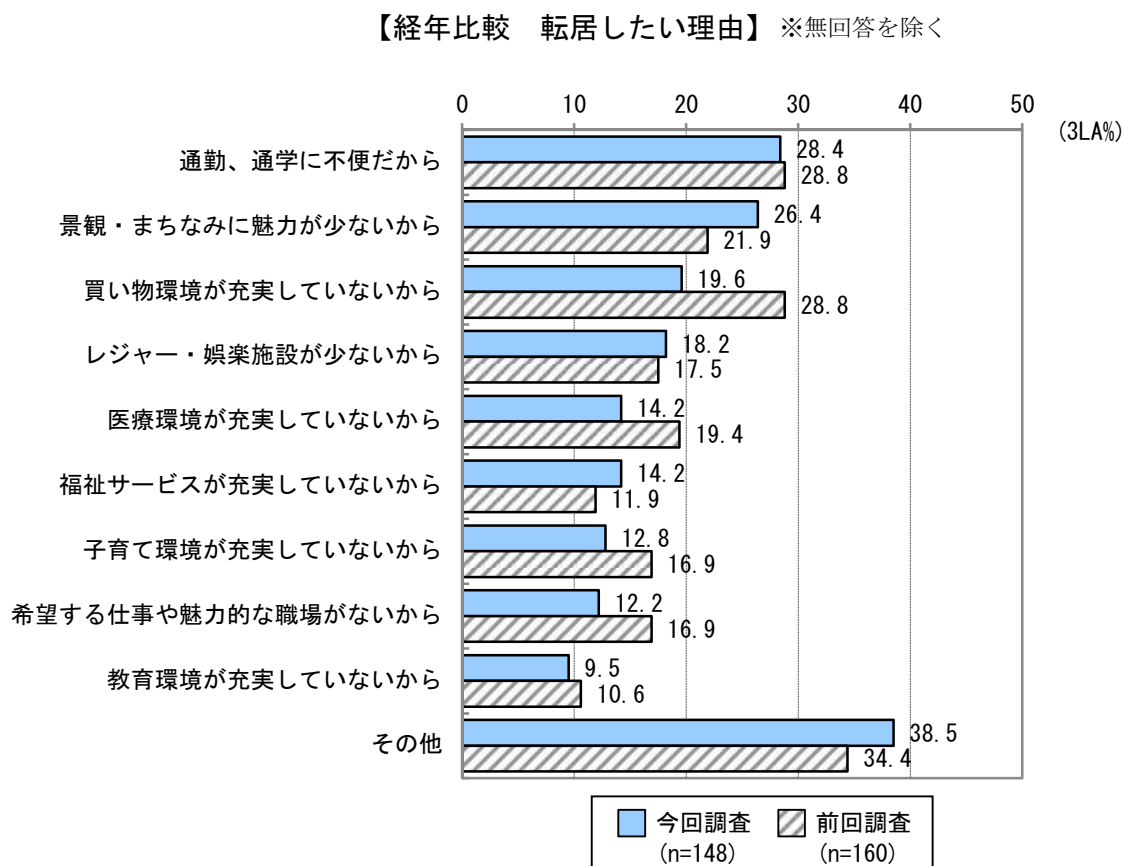
■ 定住意向について

前回調査と比較して、「現在の場所に住み続けたい」が2.6ポイント減少している。



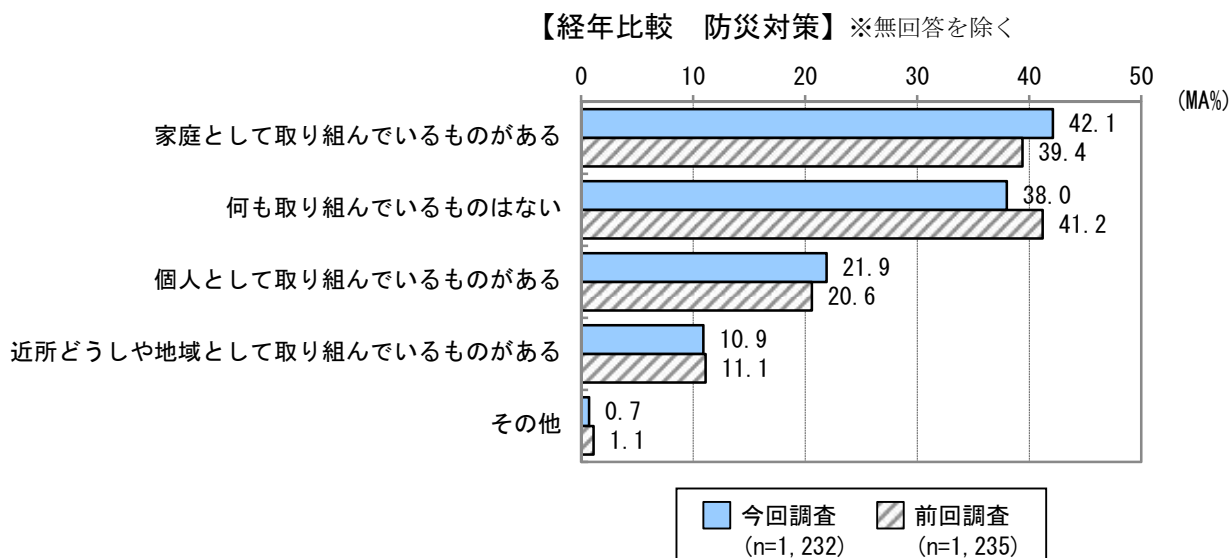
■ 転居したい理由について

前回調査と比較して、「景観・まちなみに魅力が少ないから」が4.5ポイント増加している一方、「買い物環境が充実していないから」が9.2ポイント、「医療環境が充実していないから」が5.2ポイント、「希望する仕事や魅力的な職場がないから」が4.7ポイント減少している。



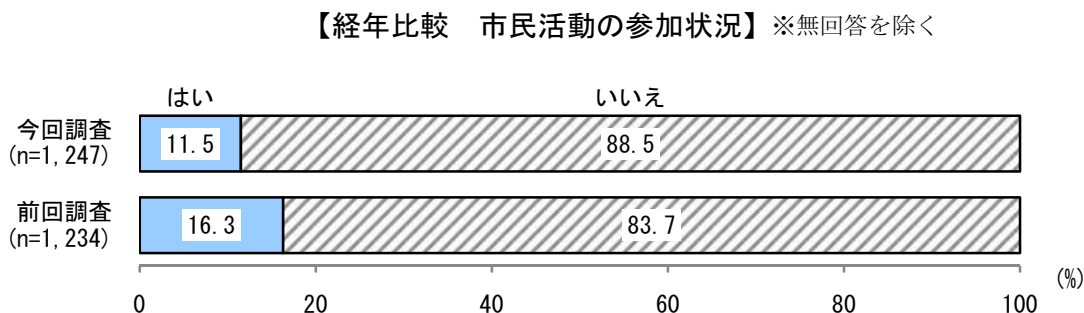
■ 防災対策について

前回調査と比較して、「家庭として取り組んでいるものがある」が2.7ポイント増加している一方、「何も取り組んでいるものはない」が3.2ポイント減少している。



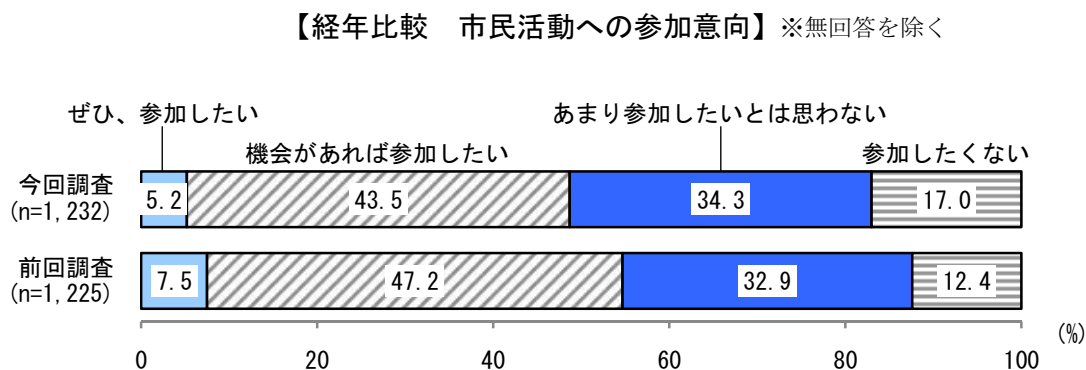
■ 市民活動の参加状況について

前回調査と比較して、「はい」（参加している）が4.8ポイント減少している。



■ 市民活動への参加意向について

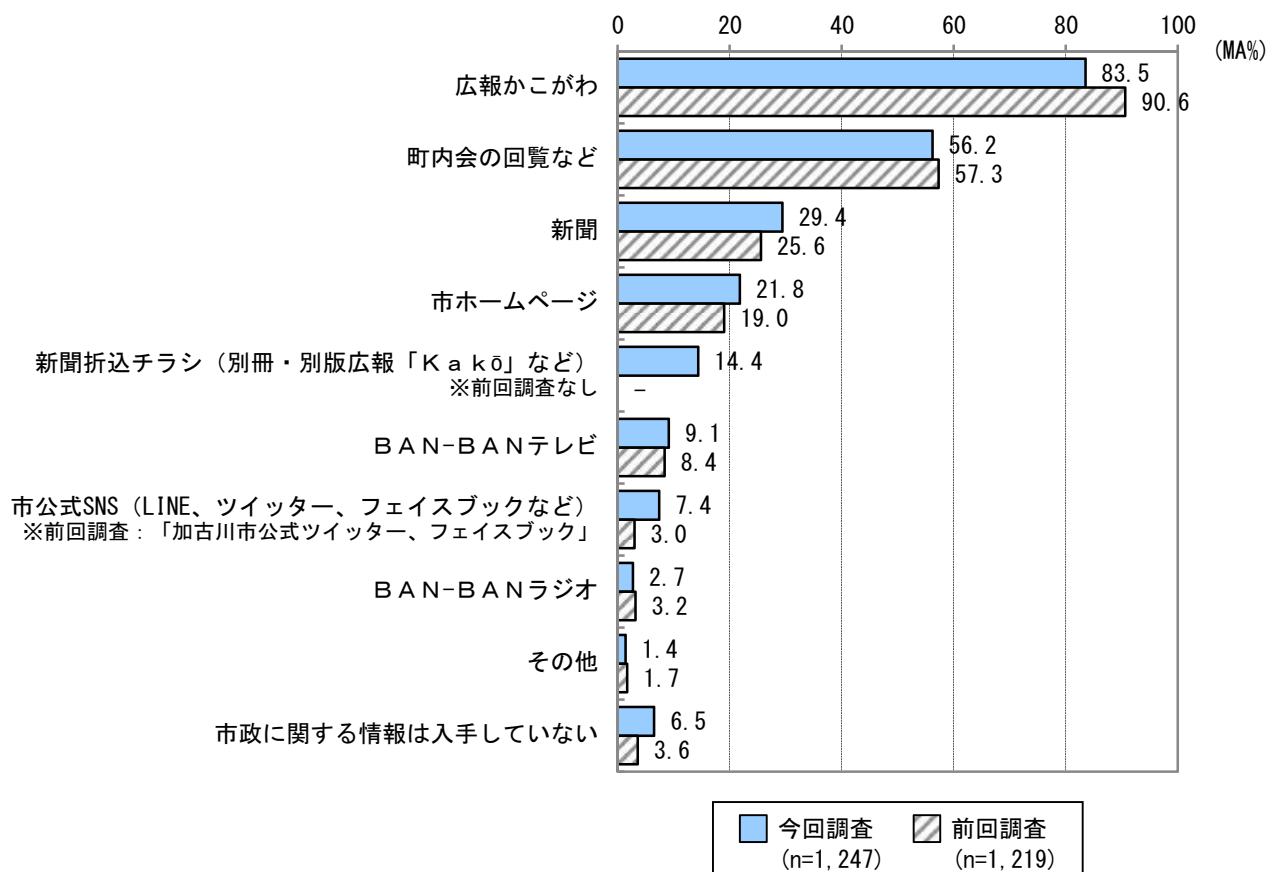
前回調査と比較して、「ぜひ、参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた『参加したい』が6.0ポイント減少している。



■ 市政に関する情報の入手方法について

前回調査と比較して、「市公式SNS（LINE、ツイッター、フェイスブックなど）」が4.4ポイント増加している一方、「広報かこがわ」が7.1ポイント減少している。

【経年比較 市政に関する情報の入手方法】 ※無回答を除く



■ 加古川市の取組等の認知度について

前回調査と比較して、「見守りサービス」が3.1ポイント、「かこがわアプリ（市公式情報アプリ）」が2.0ポイント増加している一方、「ウェルネス都市加古川」が10.5ポイント、「20%ごみ減量」が6.4ポイント減少している。

【経年比較 加古川市の取組等の認知度】

